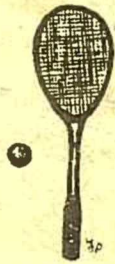


創立10周年記念誌



昭和62年7月

手稲テニスクラブ

第9回佐伯杯大会、創立10周年記念大会開かれる！



昭和62年6月14日開会式終了後写

昭和62年6月14日、第9回佐伯杯・10周年記念庭球大会を祝うかのような好天に恵まれた。爽やかな6月の風、抜けるような空の藍、日焼けだけが気掛りなテニス日和。

勤務や家事を都合して集まった人、初心者もベテランも、みんなテニスを楽しむ人達。コート朝は騒々しい。自信に満ち溢れた顔が行き交う。優勝チームを占う無責任な声。本部では裏方さんが大わらわ。

午前9時15分、プレーボールのコール。

和やかな中にも、真剣なプレーが続く。ファインプレーに感嘆し、失敗したプレーに我が身を思いやる。

やがて、コートに静けさが戻る。トロフィーを手にして胸をはる人、うなだれている人にも、満ち足りた時が流れた。

みんなが造ったテニスコートに心地良い汗が染みていた。昼のほてりは既に消え失せた。

(K・S)

式典・祝賀会

と き 昭和62年7月18日

と ころ 手稲親交センター

手稲テニスクラブ創立十周年記念式典次第

1. 開式のことば
2. 会長挨拶 手稲テニスクラブ会長 佐藤克実
3. 来賓祝辞

札幌市西区長	島中貞夫氏
前札幌市議会議員	乙黒定七氏
札幌軟式庭球連盟会長	加藤久男氏
4. 祝電披露
5. 感謝状贈呈
乙黒定七氏・葦輪勝彦氏・安藤鋤夫氏（順不同）
6. 閉会のことば

手稲テニスクラブ創立十周年祝賀会次第

1. 開会のことば
2. 祝賀会実行委員長挨拶 尾関功次
3. 乾杯 札幌市議会議員 工藤勲氏
4. テーブルスピーチ
5. 余興
6. 乾杯 札幌市議会議員 斎藤忠治氏
7. 閉会のことば

目次

- ◇ ごあいさつ……………手稲テニスクラブ会長 佐藤 克実…………… 1
- ◇ お祝いのことば……………創立10周年を祝って……………札幌市西区長 島中 貞夫…………… 2
 - 創立10周年に寄せて
 - 札幌軟式庭球連盟会長 加藤 久男…………… 2
- ◇ クラブとわたし……………コート建設当時の思い出
 - 前手稲テニスクラブ会長 安藤 鋤夫…………… 3
 - 後輩に期待して……………風間喜三郎…………… 4
 - 10周年をかえりみて……………荒川 周鎬…………… 5
- ◇ 10年の歩み……………故佐伯昌宣氏を偲ぶ……………座談会…………… 5
 - クラブ・コート・行事・会員……………谷口 芳一…………… 7
 - 活動の記録……………近田 光路…………… 11
- ◇ 明日に向けて……………手稲テニスクラブについて思う……………宮原 弘…………… 15

◇◇ ご あ い さ つ ◇◇

手稲テニスクラブ会長 佐藤克実

手稲テニスクラブ創立10周年を迎えるに当たり、ご理解とご協力を賜りました方々に一言御礼を申し上げます。ご承知の如く当テニスクラブの用地は札幌市の市有地ですが、“健康都市さっぽろ”の街づくりの趣意からあえて当クラブに開放された札幌市（西区役所）にたいしまして深く感謝申し上げる次第でございます。更に、前札幌市議会議員乙黒定七先生が当クラブに示されましたご理解とご指導にたいしまして厚く御礼を申し上げます。先生は、昭和52年、事情不案内な私達を指導・激励されてテニスコート新設を図られ、しかも、顧問として地域住民の体位の向上に強い指導力を発揮された方です。当テニスクラブはこのことを梃子としまして、札幌軟式庭球連盟のご指導と西区連絡協議会傘下各テニスクラブのご支援を得、札幌市稀にみる市民テニスクラブとして発展してまいりました。この間コート隣接の町内会のみなさまには色々と、ご迷惑をおかけしたこともあると思いますが、皆様方のご寛容さに改めて感謝申し上げます。ご

このように、みなさま方のお力でこの10年間当クラブ会員は勿論のこと、西区内のテニス愛する人達がこのコートでお互いに親睦を深め、技術の交流を図りながら“健康都市さっぽろ”の市民として楽しく、明るい生活をエンジョイしてまいりました。

例えば昭和52年、旧手稲テニスクラブと手稲鉄北小学校テニスクラブが合併し、現手稲テニスクラブとしてコートの建設に着手しました。立案から施工まですべて会員の手で行われました。約1年かかりましたが、コート完成時の喜びはいろいろな苦勞を忘れさせてくれました。しかし、テニスを愛し、病身を顧みずコート建設に情熱を傾け、落成式を目前に入院され、亡くなられました佐伯昌宣氏のことは永遠に忘れることはできません。同氏こそアマチュアスポーツの優れた指導者であったと居ります。佐伯昌宣氏のご冥福をお祈り申し上げ、手稲テニスクラブの一層の発展を期待しまして、創立10周年記念のご挨拶とさせていただきます。

◇◇ お祝のことば ◇◇

創立10周年を祝って

札幌市西区長 島中貞夫

手稲テニスクラブが創立10周年を迎えられ、ここに記念事業のひとつとして、10年にわたる歴史を集約した記念誌を発刊されることは誠に意義深いことであり、心からお喜び申し上げます。

さて、“健康都市さっぽろ”の名にふさわしく、市民のスポーツに寄せる関心は日々高まっており、とりわけ、テニスは若者からお年寄りまで、気軽に出来るスポーツとして幅広い人気を得ております。

青空のもと、澄みきった空気を胸いっぱい吸込みながら、ボールを追うあの爽快さは何物にもかえがたい喜びであろうと、私もスポーツ愛好者のひとりとして常々感じているところであります。

このテニスを同好の士とする皆様が集まり手稲テニスクラブを結成、以来、会員相互の協調により、其の活動を着実に広げられておりますことは誠に素晴らしいことと

思います。このたび10周年を契機として、貴クラブが、益々ご繁栄しますようご祈念申し上げますと共に、“健康都市さっぽろ”の街づくりに、なお一層のご協力をお願いいたし、お祝いの言葉といたします。

=====

創立10周年に寄せて

札幌軟式庭球連盟会長 加藤久男

クラブ創立10周年を迎えましたことを心よりお喜び申し上げます。一言に10年と申しますが、随分と長いものです。札幌軟式庭球連盟の加盟団体は約80近くになっておりますが、10年以上の歴史を持つクラブは数少ないのであります。

クラブ創立以来10年、営々と、クラブの発展の為に努力されました前会長安藤鋤夫

氏、現会長佐藤克実氏始め役員の方々のご努力は、大変だったろうと改めて敬意を表する次第でございます。

10年を経て確固たる基礎が出来た今日、今後益々のご発展が期待されるところであります。これからも軟式庭球発展の為に尽くされんことを希望いたします。

創立10周年、誠にありがとうございます。手稲テニスクラブに結集される皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしましてご祝辞といたします。

◇◇ テニスクラブとわたし

～コート建設当時の思い出～

前手稲テニスクラブ会長 安藤 勤 夫

私が旧手稲クラブの会長でもあり、年長であったことから、初代の会長をさせていただきましたが、会員のみなさまには大変にお世話になりました。

当時を思い起こすとき、何と言いましても、みなさんと一緒にコート造りをしたことが思い出されます。昭和53年の一夏というものは、他のクラブが試合、あるいは練習に励んでいた時、みなさんの手にはラケットではなくスコップや金鍬が握られていましたね。みんな真黒に日焼けし、「秋にはテニスができる」とニコニコ顔で日が暮れるまで地均しに、ハウス作りに汗を流しておられました。本当にご苦労様でした。

そんなみなさんの姿が、つい最近のように思い浮かんできます。完成後1年でコート用地に体育館が建てられると聞いた時は、本当になんと言ってみなさんにご説明したら良いかと悩みました。しかし、市長さん、西区長さんの特段のお図らいで翌年(昭和55年)の6月、コートを現在の位置へ移転していただいた時は本当に心からうれしく、又、ホットした気持ちで一ぱいでした。この市長さん、西区長さんのご好意のコート移転工事も、みなさんのあの一夏の努力と苦労が実を結んだものと、私は確信しております。

最後になりましたが、会員のみなさまのご健勝とこのコートが一日でも長く使用でき

ますことを念願して、当時の思い出といたします。

=====

～後輩に期待して～

風 間 喜三郎

手稲テニスクラブ発足10周年を心からお祝い申し上げます。

思い起こせば、昭和48年蓑輪勝彦氏の勧誘により同志の者が集まって同好会として発足しました。コートは、現消防署手稲出張所と中央幼稚園との凹地を地均しして利用しました。フェンスなどは、故斎藤電設社長より資材の寄贈を受けまして、最小限ながら設置しました。このように、手造りコートで楽しくテニスをやってきましたが、折り折り、花壇にボールが飛び込み、苦情を受けたこともありました。こうして歳月を送るうち、会員がふえてコートは手狭になりました。たまたま、親交センター建設用地として返還を迫られましたが、顧問の乙黒氏のご努力により富丘コートを新設していただき、現在に至っています。この間会員は増加するばかりで悩んでおりましたが、会員の多数が居住している曙の市有地、現西区体育館用地を借用したコート建設を計画し、またまた、乙黒定七氏を煩わしました。結果、条件付きではありますが、コート建設を許されました。コート造りは2年がかりで行われました。第1年は専ら土木工事の残土を捨てて貰い、翌年は会員全員で休日やお互いに都合の良い日・時間に地均しし、フェンス鉄柱の溶接など其の他外郭等全部会員の手作り・奉仕作業で完成させたものでした。このことは他に類例の無いことであると、声を大にして言うことができます。この作業中心責任者は今は故人となりました佐伯昌宣氏です。私は西区体育館への出入りの都度、故人への思いが胸に迫り追憶の念深いものがあります。現在の西区体育館建設のためコートは移転の止むなきを得ましたが、佐伯氏の初志は永遠に生かされていると思っています。

幸いにも現在のコートは市内でも有数の施設であると自負できます。将来、移転などの話題に供されないよう管理・保全に留意することは勿論ですが、会員の方には先輩諸氏の熱情を汲み取り、お互いに切磋琢磨、技術の一層の向上に当たりますよう切に願ってお祝いの言葉といたします。

～創立10周年を顧みて～

荒川周 鎬

昭和52年10月、手稲クラブと鉄北小PTAサークルが一緒になってコート建設期成会が発足し、最初に決まったのが、会員専用のコート建設計画でした。建設期成会の一員として微力を尽くした当時の思い出が走馬灯の如く蘇ります。今にして思えば、至難な計画でしたが、市有地約3,000㎡を借り、昭和53年から本格的にコート4面分の整地作業が開始されました。9月にアスファルトコート2面が完成、残りの2面も10月には、何とかクレーコートに形を整え、ハウスまで完備して、感激の極みでした。この間全会員一丸となって毎週の休日は、馴れない手造り作業で汗を流したことが昨日のこのようであります。特技の有無、男女を問わず、スコップで土を均し、一輪車で運び、ふるいで小石を取り、ローラを引き、解体、建築作業まで、経験したことのない重労働が明るい談笑の中で楽しく進められ、特に、この期間中人々とのすばらしい出会いから多くを学び、助けられました。また、団結力の偉大さを痛感させられたものです。

10周年を迎えるに当たり、クラブを今日まで導いた先輩各位に感謝し、手稲テニスクラブの一層の発展をお祈り申し上げます。

◇ 10年の歩み

～故佐伯昌宣氏を偲ぶ～

手稲テニスクラブの発展には、多くの方のお力添えがありました。今回、その方達の中から故佐伯昌宣氏について語っていただきました。故佐伯氏は死の直前まで手稲テニスクラブを思い、その人となりも私達を魅了した方でした。出席者は当時、テニスを始めたばかりか、まだ、初心者と呼ばれていた方々です。

紙面の都合で割愛部分が多かったことをお詫び致します。

出席者：伊藤順子 国部千栄子 小山喜栄子 谷口弘子 佐藤京子

- A；上の子が小学校に入学した年に、鉄北小PTAサークル活動で佐伯さんにラケットの握り方から教えてもらったのが出会いでした。
- B；私も子供が入学した年に、やはり、ラケットの握り方から教えてもらいましたから、確か2期生と思う。
- C；最初は、ラケットにボールが当たらなくてね。でも楽しかった。
- D；私は佐伯さんに習った期間が、あまりにも短かくて、却って印象が強烈なんだけども、「ラケットに当たらなくても、思い切り振りなさい」と教えられたわ。
- A；たまたま上手に出来ると、「いまのいいよ」と誉めてくれて、「さっきのとは雲泥の差だよ」と言ってね。
- E；良い所は誉めてくれるし、悪い所の指摘の仕方も、素直に受け入れられる言い方なのね。
- C；そうそう、「力まかせに打とうと思わないで、来たボールを来た方向に返せばいいんだ」とか。
- D；一人ひとりの癖を見抜いて励ます教え方なのね。
- A；円山へ試合に行った時、「勝ったらビールを飲ますから、ガンバレ!!」ってね。
- E；佐伯さんの試合を一度見たことがあるけれども、細い体で良く走って、凄いいスピードボールを打つのはびっくりしましたよ。
- B；佐伯氏に習っていると楽しくてね、誉められると、上手になったような気になるのね。
- C；なによりも、公平な人で、みんな一緒に上手になる雰囲気してくれるしね。
- B；お酒も好きな人で、愉快でいいお酒だったね。
- D；あの頃、自由に使えるコートが欲しい一念で、佐伯さん先頭に一生懸命作業したけれども、みんなのあのエネルギーは物凄いものがあったね。
- E；それにしても完成を見届けると入院し、手稲テニスクラブには、なくてはならない方を亡くしたけれども、私達の心の中には、しっかりと生きていると思うよ。
- B；お酒が好き、マージャンも好き、テニスが大好きな人、本当に、惜しい人が亡くなったと思う。惜しい人、その一言に尽きると思うわ。 一同：そうね。

～クラブ・コート・行事・会員～

クラブ

手稲テニスクラブは、昭和52年10月、「手稲テニスコート建設期成会」として発足し、現在、西区曙にコート4面と富丘コート、計5面のクレーコート有している。会員はいつでもコートを自由に使用でき、そしてそれを会員の協力で維持管理している札幌市でも例を見ないテニスクラブである。

1. 昭和50年頃から手稲地区に軟式テニスが普及し、クラブやサークル活動が盛んになった。

しかし、当時手稲方面には、富丘コートと鉄北小コートの2面しかなかったため、旧手稲クラブと鉄北小クラブの役員・有志によって、会員が自由に使える新コートの建設の可能性について検討がなされた。

2. 昭和52年に入り、手稲体育協会会長で、当時、市議の乙黒定七氏のお力添えを得て、4面のコート建設用地を無償で借用出来、埋立整地には、上下水道工事の残土を無償で利用出来ることになり、建設の目途もついた。

3. 同年10月、富丘会館において、「手稲テニスコート建設期成会」の設立総会が開催され、旧手稲クラブと鉄北小クラブの会員が期成会の会員となり、旧手稲クラブの会長であった安藤鋤夫氏が会長となった。

以上が手稲テニスクラブ創立の経過である。

コート

◆ コートの建設

1. 現在西区体育館が建設されている市有地約3,000㎡を借り受け、昭和52年10月か



写真1 コートの土運搬



写真2 フェンスの作成

ら工事の残土による埋め立てが始まり、翌昭和53年5月から休日等における会員の労力奉仕並びに技術協力で、作業が進められた。

2. 工事は、市の土木関係の方々のボランティア協力を得ながら進められたが、予想外の難工事で、計画より半月以上遅れて9月3日ようやく全天候型コート2面の仮オープンをみる事ができた。

3. 各工事が一応完了し、10月8日に4面のコート開きを行った。この日は、西区長始め多くのご来賓のご出席をいただき、会員一同心から完成を祝った。

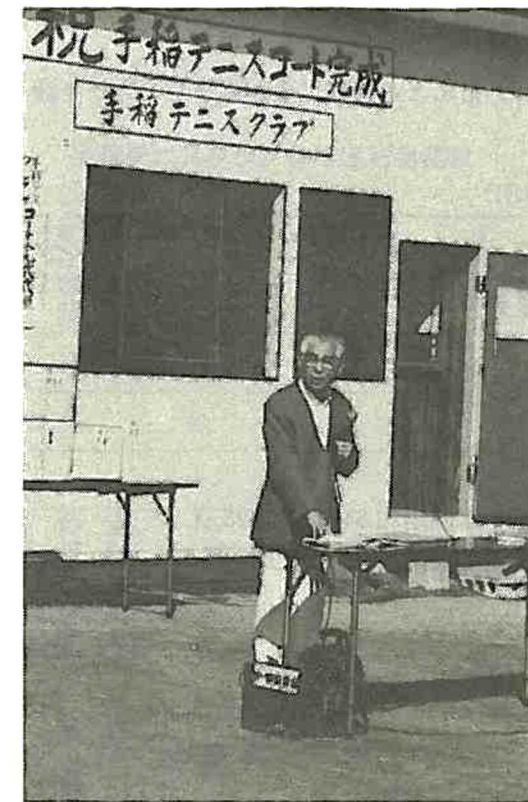


写真3 テニスコート完成式 前安藤会長の挨拶

4. 建設に要した材料費及び舗装工事費等の建設資金200万円は地元篤志家からのご寄付60万円と、会員の協賛金110万円、翌年度の会費を当にした30万円で賄われた。

◆ コートの改修

1. 昭和54年6月、電気及び水道を設置した。
2. 昭和54年7月、クレートコートに石が多いため改修工事を行った。

◆ コートの移転

1. 昭和54年9月中旬、建設したコートに西区体育館が建てられることが決定し、10月10日、会員80名が参加してコートとお別れ大会を行った。
2. 代替として、翌年春、市が同敷地内の樽川通り側に移転工事を行ってくれることとなった。
3. 昭和55年6月15日、市による移転工事が完了し、コート開きを行った。

◆ コートの改造

1. 昭和58年7月、会員の健康面を考慮し、舗装コート2面をクレートコートに改造した。
2. 中古の自動ローラを購入した。

行 事

◆ クラブ内大会

1. 佐伯杯大会・6月(第1回昭和54年9月23日)
2. 夏季大会・8月(昭和55年から)
3. 秋季大会・10月()
4. 納 会・(昭和53年から)

◆ クラブ内事業等

1. 初心者及び中級者等講習会・春秋(昭和53年から)
2. 夏休み中の小中学生軟式テニス講習会・8月(昭和56年から)
3. 忘年会・12月第1土曜日(昭和53年から)

◆ 交 歓 試 合

1. 西区内各クラブ対抗団体戦(区長杯)・7月(昭和56年から)

2. 西区ママさんテニス大会・8月(昭和53年から参加、昭和60年から当クラブコートで開催)
3. 対苦小牧チーム・9月(当クラブコートと苦小牧で交互に開催)
4. 札連春・秋加盟団体戦5・9月(昭和54年から参加)
5. 他クラブとの交流試合年数回

◆ 会員の任意参加

市民大会、春・秋札幌大会、区対抗試合、札幌選手権、その他

会 員

手稲テニスクラブ各年度別会員数

(昭和52年から同62年まで)

年度	会員数 (新) (旧)	会 副 会 長	顧 問
昭和52	106 人	安藤 佐藤 克夫・実・藤 輪 勝彦	乙黒 定七
53	137 (31) (106)	"	"
54	195 (89) (106)	"	"
55	195 (50) (145)	"	"
56	190 (51) (135)	佐藤 克夫・実・尾関 功次 荒川 周 鎬	乙黒 定七・藤 輪 勝彦 安藤 鋤 夫
57	190 (62) (128)	佐藤 克夫・実・尾関 功次 荒川 周 鎬・藤 美恵子	"
58	156 (28) (128)	"	"
59	167 (42) (125)	佐藤 克夫・実・尾関 功次 荒川 周 鎬	"
60	169 (37) (132)	佐藤 克夫・実・宮原 弘 尾関 周 鎬	"
61	148 (27) (121)	"	"
62	130 (15) (115)	"	"

昭和62年度は推定

～活動の記録～

佐伯杯大会 (優勝チームのみ)

年度	壮年	一般男子	一般女子 A	一般女子 B
54	本堂・佐藤	上井・中島	大辻・森田	
55	小林・松本	上井・疋田	鈴木・矢部	
56	安藤・小林	宮原・矢部	谷口・今永	
57	近田・片岡	古里・近藤	谷口・今永	
58	階戸・佐伯	宮原・山田	宮原・今永	
59	本堂・佐伯	安住・佐野	谷口・伊藤	
60	菅原・佐伯	古宮里・佐々木 宮村・池野	宮原・小成	荒・今永
61	村林・宮村	米谷・近田	宮原・松尾	森田・平沢
62	菅原・谷口	佐伯・竹田	宮木・国部	能呂・種田

西区長杯大会

年度	種別	優勝	準優勝	第3位
58	壮年	琴似クラブ A	手稲クラブ A	福井振興会
	男子	琴似クラブ A	手稲クラブ A	西区クラブ
	女子	琴似クラブ	西区クラブ A	手稲クラブ A・B
60	壮年	手稲クラブ A	琴似クラブ	手稲クラブ B
	男子	琴似クラブ A	手稲クラブ A	手稲クラブ B
	女子	手稲クラブ A	手稲クラブ B	西区クラブ
61	壮年	琴似クラブ	手稲クラブ A	手稲クラブ B
	男子	琴似クラブ A	手稲クラブ A	琴似クラブ B
	女子	手稲クラブ A	手稲クラブ C	手稲クラブ E 手稲クラブ

西区ママさん大会 (当クラブ関係分のみ)

年度	種別	優勝	準優勝	第3位
57	1部	竹沢・今永	神前・長屋	西沢・山本
	2部		松元・首藤	
58	1部		荒・伊藤	小成・長屋
	2部			神前・森山
	3部	茂呂・中村		
60	1部		月岡・戎屋	千葉・兼成 岩佐・中野
	2部			
	3部		宮木・国部	松元・佐藤
61	1部		山村・渡辺	
	2部		横井・中川	荒・兼成
	3部			宮原・佐藤博

追記 昭和59年度 優勝3部 谷口・神山
夏季大会

年度	種別	優勝	準優勝	第3位
58	壮年	甲谷・近田	小林・谷口	佐藤・安藤 藤上・本堂
	男子	小山・階戸	宮村・山	尾山 関田・上井 原宮
	女子A	谷口・中村	宮原・鈴木	松宮 元木・矢部 田森
	女子B	神前・長屋	小成・山本	竹佐 沢藤・今永 伊藤
59	壮年	本堂・村上	村林・佐藤	安藤・荒
	男子	青田・尾関	神前・上井	宮村・小林
61	壮年	菅原・谷口	階戸・佐藤 尾関・山本	
	男子	山・大沢	宮原・矢部	宮村・近田
61	女子	宮原・中村	山田・国部	神前・矢部

秋季大会

年度	種別	優勝	準優勝	第3位
58	混合	山・森田	松元・近田	桜鈴井木・矢飯部田
59	混合	尾関・宮原	本堂・佐藤博	山田・山本
61	混合	階戸・中村	宮原・兼成	上青井田・田原

納会

年度	種別	優勝	準優勝	第3位
58	男子	青田・本堂	神山・小山	田中・尾関 山田・近田
	女子	宮木・小林	谷口・佐藤	甲神谷前・塚村部 神谷・塚村
59	壮年	小林・小林	本堂・荒川	谷村口林・北佐村藤
	男子	宮村・古里	神山・鈴木	神宮前原・尾関 神前・尾関
	女子A	神山・矢部	谷口・山本	遠宮藤原・佐藤 遠宮藤原・佐藤
	女子B	甲谷・林	松本・中野	見岩角佐・戎石屋墨
61	秋季大会を兼た。			

対抗戦

年度	記事
57	3クラブ対抗戦 ①西区クラブ、②手稲クラブ、③小樽協会
58	手稲クラブ 愛球会 手稲クラブ 上手稲クラブ 手稲クラブ 仁木町クラブ 7 8 7 9 16 0
	3クラブ対抗戦
	1位 手稲クラブA 2位 上手稲クラブB 3位 手稲クラブB
	4位 手稲クラブC 5位 ユースクラブ 6位 上手稲クラブB
	手稲クラブA：宮原・中村、鈴木・小林、近田・佐藤 " B：松元・国部、塚村・森山、竹沢・山本 " C：小成・今永、荒・長屋、佐藤・土田

59	手稲クラブ 愛球会 手稲クラブ 東区カルチャクラブ 手稲クラブ 苫小牧クラブ 5 9 13 12 5 7
	春季加盟団体B級優勝 青田・矢部、山・佐々木・宮原・近田
	春季札幌大会 男子C級3位 青田・矢部 女子C級3位 宮木・森田
60	第1回日刊スポーツ杯 札幌市民体育大会 男子B級3位 青田・上井 男子壮年優勝 西尾・近田
	北海道ママさん大会 決勝トーナメント、札幌女子(A) 2:0 手稲クラブ 手稲クラブ 宮原・塚村、松元・佐藤博、神前・森山
61	手稲クラブ 余市クラブ 手稲クラブ 西区クラブ 手稲クラブ 小樽クラブ 手稲クラブ 大空クラブ 9 6 15 14 16 0 14 2
	北後志インドア大会 男子優勝 階戸・近田 女子優勝 神前・佐藤 2位 松元・佐藤博 3位 篠塚・篠塚
	第2回ミヤスポーツ杯大会 壮年3位 青田・石井 成年2位 山・石川 3位 宮村・大沢 男子3位 古里・神山 女子優勝 神山・宮越 2位 佐々木・鈴木
62	手稲クラブ 8:6 天狗クラブ 全道招待小樽大会 成年3位 芝木・石丸 壮年優勝 西尾・鈴木 3位 二見・近田 日刊スポーツ杯大会 男子B級3位 宮原・大沢 " C級優勝 階戸・小山

◇◇ 明日に向けて

手稲テニスクラブについて思う

宮 原 弘

このクラブが出来てなんと10年になるとは！

この年数は私のテニス歴のほとんどである。始めた時は指導に当たった先輩に親切にされ、一面のコートで順番を、待ち、待ち、みんな仲良く練習したものです。しかし、コートを作ろうとゆうことで、今度はテニスを止めてみんなで力を併せて、また、わいわい……。苦しいながらも手造りコートが4面も出来た時の感激は今だに忘れられません。

クラブが一年一年と大所帯に発展し、クラブの在り方について考えたら、クラブの活動とは、テニスに対する知識や技術（技術の向上）のみを追求だけでなく、集団でテニスを楽しむ心と、テニスを愛することであると思いました。初心者から上級者まで、また、老若男女を問わず自分の置かれている立場をよく考え、役員に任せ切りでなく、どうしたらみんなが仲良くテニス出来るかと、よい知恵を出し合って、更に、より良いクラブづくりに頑張ろうではありませんか。

《あ と が き》

少い予算、短い期間、原稿の集まり、資料の散逸等気持の負担は大変重いものでした。しかし、遂に、あとがきを書ける日がやってきました。沢山の方に原稿をお願いしたかったのですが……配慮の行き届かなかったことをお許し下さい。お忙しい中、ご祝辞をいただいた各位と、寄稿していただいた方々に心よりお礼申し上げます。終りにカットをいただいた全道展会員、大井戸百合子氏に厚く御礼申し上げます。

記念誌発行編集委員

佐藤 京子、佐藤 克実、谷口 芳一

西 恵子、近田 光路、小林 照則